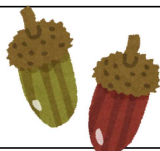


図書館だより

2021年11月号
徳島北高等学校図書委員会

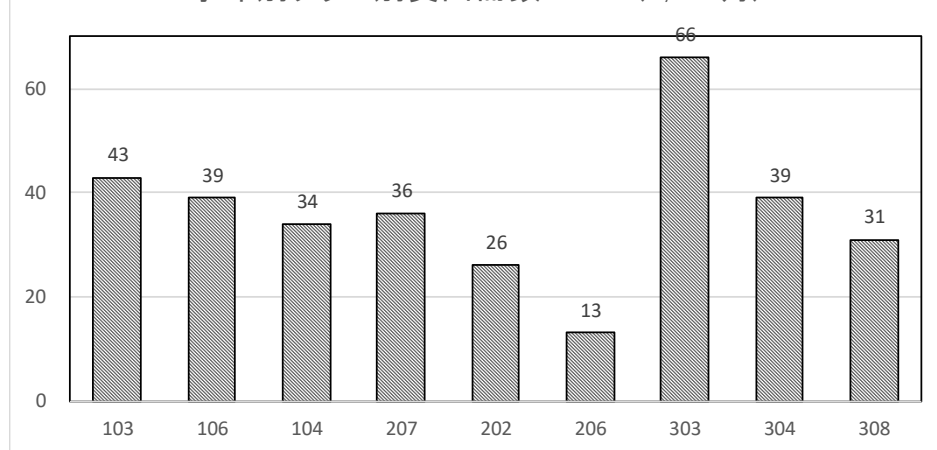


今年は秋を飛び越えていきなり冬のような寒さになりましたね。これから寒さも本番を迎える時期となります。ペンを握る手がかじかんで勉強が身に入らなくなる人も多いのではないのでしょうか。

そんなときこそ本を開いてみましょう。身体を温かくして本を読めば、心身ともにリラックスすることができます。また、新たな知識を得ることができるかもしれません。図書館にはあなたの興味を刺激するような本がたくさんあります。

今年の冬は図書館を積極的に利用して、充実した読書生活を過ごしましょう！

学年別クラス別貸出冊数BEST3(9, 10月)



★小論文対策にも図書館の活用を★

小論文対策の本を集めたコーナーやSDGs簡易パスファインダー、新聞記事見出し別テーマファイルなど、小論文対策に活用できる資料の準備や工夫をしています。医療・教育・福祉・地方創生などのテーマの図書もあります。どの資料を見ればいいのかわからない人はぜひ司書に聞いてみてください。

●開館時間 9:00~17:00

図書委員のおすすめ本(◆の本は図書館にある本、●の本は発注中の本です)

◆『世にも奇妙な君物語』朝井リョウ 著 講談社

203HR図書委員

このタイトルを耳にしたことがある人は多いのではないのでしょうか。この本は、テレビで放送されている「世にも奇妙な物語」のストーリーが何編か描かれた短編小説集です。私がこの本をおすすめするポイントは2つあります。1つめは、好きなストーリーから選んで読める点です。初めのページから展開が繋がっていないので自分の読みたいストーリーだけを読むこともでき、長編が苦手な人にもお勧めです。2つめは、テレビ版と比較しながら読める点です。小説とテレビで描かれ方や表現が違うので、両方を比べて楽しむことができます。読んだことのない人は是非読んでみてください。

●『誰も死なないミステリーを君に』井上悠宇 著 早川書房

203HR図書委員

「いい？佐藤くん。私たちは、親切や優しさや愛で、こっそり世界のネジを巻くの」「ミステリー＝人が死ぬ」と思いがちですが、この小説はひと味違います。タイトルにもあるとおり、「誰も死なないミステリー」を実現するため、「僕」が推理をしたり、一芝居打ったり、奮闘するお話です。2人の会話も軽快で、読んでいてつい、クスリと笑ってしまいます。ミステリーが好きな人も、普段あまり読まない人も、是非、読んでみてください。

◆『島はぼくらと』辻村深月 著 講談社

207HR図書委員

瀬戸内の海に浮かぶ牙島。周りを海に囲まれたその離島に住む子どもたちは、大人になると島を離れていく。そんな島に住む4人の高校生たちと島の人々が描き出していく、高校最後の夏の物語。

過疎化対策としてIターンやUターンなどの受け入れ体制が進む牙島での、離島ならではの人間関係やそこに潜む人々の各々の事情がありありと表現されている作品です。田舎独特の閉塞感が漂う、決して綺麗なだけではない人間関係の側面が展開されていくところに魅力を感じました。島への移住を受け入れる人、受け入れられる人。それぞれにその人の事情や大切な思いがある。そんなことを教えてくれる小説です。

★今後の予定

12月15日(水) 2年生クラス読書会

冬休みの開館予定日は進路ニュースや行事予定表を確認してください、

